



## 会長あいさつ

曾於市農業委員会

会 長 原 田 石 郎

農業委員会だよりの発行にあたり一言ごあいさつを申し上げます。

皆様におかれましては、ご健勝にてお過ごしのことと思います。平素から農業委員会活動にたいして格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、曾於市が誕生してはや 1 年 9 ヶ月になろうとしています。曾於市では、人口が約 43,000 人、2005 年農林業センサスによる農家戸数が 5,902 戸、農地面積が 8,980 ヘクタールとなったところであります。

また、私ども農業委員については、一昨年の合併以降、飯野幸生会長を先頭に選挙による委員 30 人、団体と議会の推薦による委員 6 人の合計 36 人で、旧町ごとに農地部会を設置し、また 10 名の委員による農政部会も設置して行政委員会として活動してきたところでしたが、昨年の 9 月に飯野会長が急逝され、その後任に私原田石郎が互選されましたので、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

さて、日本の農業は少子高齢化の進行や外国からの農畜産物等の輸入により、大きく圧迫されてきております。曾於市においても、近年の高齢化の進行や後継者、担い手の減少等により、優良農地の荒廃が進み、遊休農地も増えて農地の流動化もなかなか進みにくい状況にあります。また、不安定な気象状況や自然環境への関心の高まり等から、農業経営を取り巻く環境も決して安易なものではありません。

このような中で、いよいよ 19 年度においては、担い手への施策の集中化・重点化による新たな経営安定対策が始まることになります。一方では、近年の B S E や鳥インフルエンザ等で、国民の「食の安全・安心」に対する関心は高まってきており、更に子供達への食農教育も推進されてきており、日本の農業への理解も深まっていくことと思います。

曾於市農業委員会としては、国の施策や国民・住民の意思を尊重しながら、曾於市の基幹産業である農業を守るため、優良農地の確保、農地の有効利用、担い手農家への農地の集積、遊休農地の解消等に積極的に取り組み、また農業経営環境の充実に努め、行動する農業委員会として、農家や地域の期待に応えるよう、努力していく所存でございますので、ご理解、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げ、ご挨拶いたします。